

IGS 理事会報告

IGS 理事会 2020(オンライン会議)の報告

京都大学大学院地球環境学堂 勝見 武
防衛大学校システム工学群 宮田 喜壽

1. はじめに

2020年の国際ジオシンセティックス学会(IGS)の理事会は、当初は各地域会議の開催にあわせて4月にブラジル・リオデジャネイロと9月にポーランド・ワルシャワで開催される予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で対面形式では開催できなくなり、オンラインで開催された。開催状況は表-1の通りで、従来は対面で2日かけて集中審議していたものを、オンラインのため6月から11月にかけて都合4回に分けて開催された。また、第3回理事会の準備のため8月下旬～9月上旬には10近くある委員会がそれぞれオンライン開催され、各理事はそのうちの複数の委員会に出席した。会議開始時刻はいずれもグリニッジ標準時で午前11時に統一された。これは日本時間では夜の8時で、会議終了が日付が変わる直前となることもあった。

表-1 2020年理事会の開催状況

	開催日時(日本時間)	出席者	主な議題
第1回理事会	6月22日 20:00～21:30	新任・留任理事(Electedのみ)	理事会メンバーの決定
第2回理事会	8月3日 20:00～24:00	新任・留任・退任理事	過去1年のレビュー
(各委員会)	8月下旬～9月上旬に各委員会が開催された		
第3回理事会	9月7日 20:00～23:40	新任・留任理事	今後1年の計画・方針
第4回理事会	11月9日 20:00～(予定)	新任・留任理事	予算案の決定

2. 理事改選と選出

IGSの理事会は、会長、副会長、前会長、理事により構成される。会長と副会長ならびに理事の約半数は4年に一度の国際会議の開催のタイミングに合わせて選出され、残りの理事は2年ずらして選ばれている。理事には「elected」「co-opted」「invited」の3種類があり、その選出方法や役割等は表-2の通りである。co-optedやinvitedのメンバーは、地域や業種等のバランス等を考慮して選ばれることが多いようである。

表-2 理事の種類

	選出方法	人数	任期	理事会での投票権
Elected member	全会員による選挙	10～16名	4年	あり
Co-opted member	理事会の推薦	5名以内	2年	あり
Invited member	理事会の推薦	—	2年	なし

2020年3月5日～6月15月にかけて行われた選挙では、16名の elected member のうち任期が終了した7名の枠に17名が立候補した。日本からは筆者のうち宮田が立候補し、無事選出された。他の当選者の地域別の内訳は、欧州4名、北米1名、アフリカ1名で、アジアからは他に7名の立候補があったがいずれも当選に至らなかった。

6月22日に開催された第1回の理事会の議題の1つは、この選挙結果の確認と、co-opted と invited の理事の選出である。co-opted member には選挙で次点の5名（うちアジア3名を含む）が選ばれた。invited member には誰も選ばれなかったインドから1名を選んだほか、若手技術者委員会委員長およびアフリカ地域会議とパンアメリカン地域会議のホスト（代表者）の合計4名が選ばれた。いずれも執行部提案を出席の理事が承認した形で決まった。これにより理事の地域別構成はアジア(オセアニア含む)30%、欧州37%、アフリカ11%、南北アメリカ22%となった。

3. 理事会の主な議題と最近の話題

8月3日に開催された第2回理事会では、理事会の下に設置されている各委員会やタスクフォースから一年間の活動に関する報告を受け、今後の方針に関する予備審議・意見交換を行った。さらに、今後一年間の活動方針・計画を9月7日開催の第3回理事会で議論するのに先立ち、各委員会は8月下旬～月上旬にオンラインで集まって準備をした。現在、理事会には、理事会委員会（法人会員、広報、教育の3つ）、地域委員会（アフリカ、アジア、ヨーロッパ、パンアメリカンの4つ）、若手委員会、タスクフォース（何があるか把握しきれいていません、すみません）などがあり、それぞれの報告を受けるだけでも膨大な時間になる。ここでは、主な議題や最近の話題に絞って記載する。

3.1 デジタルライブラリーとウェブレクチャー

会員サービスと学会の認知度向上のためデジタルライブラリーの準備が進められてきたが、コロナ禍環境下での会員サービスレベルの維持のためにも充実したデジタルライブラリーの開設が急務である。ウェブベースで講義映像を提供することも有効であり、現在8つのコースの準備がデジタルライブラリーTFによって進められている。

3.2 ISO 遵守・準拠への厳格さ

しかしながら3.1に関して壁が立ちはだかっている。ウェブレクチャーはIGSが提供する教材であることからISOの表記法や定義に厳格に従うべきという意見と、ISO以外の基準等でも広く使われているものもあり、特に南北アメリカを対象に考える場合はISOに縛られるのは実質的ではないとの意見とがあって、収束をみそうにないのである。北米の研究者・技術者にレクチャーの準備をお願いしている場合は、完全ISOでの講義作成をして頂くのは難しそうである。理事会のオンライン会議ではこの問題に関する議論だけで30分以上を費やし、収束をみることはなかった。「用語と定義」のタスクフォースを設置することが動議され、賛成76%、反対5%、棄権19%で認められた。さらに、IGSの会員に意見を聴取することが動議され、その有効性や意義をめぐって会議は少し紛糾したが、投票が行われて賛成64%、反対34%となった。過半数は得たものの反対票が多いことに注意が必要であろう。ますます収拾がつかなくなるような気がする。

3.3 ジオシンセティックスの機能としての Stabilization（安定化）

ISOへの準拠で議論になる事項の一つとして、Stabilization（安定化）の扱いがある。ISOでは、

ジオシンセティックスの機能として、補強、分離、ろ過、排水、遮水の他に安定化（Stabilization）が定義されている。しかしながら、Stabilization を機能として位置づけていることに違和感をもつ会員は特に北米に多く、ASSHTO では Stabilization について異なる定義がされている。これについて、筆者のうち勝見が委員長をつとめる教育委員会でもオンライン会議で議論があったし、会員からも意見が寄せられているようである。筆者らも違和感がないわけではない。補強機能との明確な区別がよくわからないからである。独立した学術団体であることを踏まえ、ジオシンセティックスの正しい普及のために IGS の方向性が定められていくことが重要と考えている。

3.4 廃プラスチック問題

マイクロプラスチックによる海洋汚染は世界的な注目を集めている。ジオシンセティックスがそのような環境汚染に加担しているとみられることは業界にとって大きなマイナスで、逆に様々なインフラの効果的・経済的な構築に貢献できるという面を社会にきちんと伝えていく必要がある。この問題を背景に、昨年からサステナビリティの TF が設置されたが、より実質的な活動が必要なことから、TF から委員会に格上げされることが理事会で承認された。

3.5 その他の主な議事・話題

地域会議のうち、リオデジャネイロで 2020 年 4 月に開催予定であった GeoAmericas 2020 は 10 月に延期され、完全オンラインで開催される。9 月ワルシャワで開催予定の EuroGeo 7 は 2021 年 5 月に変更となった。各地域会議では各社の展示も重要で、開催時期が重なるのはよくないとのことで、2021 年 3 月台湾開催予定の GeoAsia 2021 は玉突きのように 2021 年 11 月 22～26 日に変更となっている。IGS は現在は財政状況は健全だが、コロナ禍で会議が対面で開催できなくなると技術展示等による収入が見込めなくなることにも注意が必要である。一方、若手賞受賞者には地域会議への参加旅費がこれまで援助されていたが、対象となる地域会議が当面はオンラインとなることから、受賞者への援助方法の検討も要する。2024 年開催のパンアメリカン会議（GeoAmericas）の開催地には北米支部（開催地はトロント）とチリ（同サンチアゴ）が立候補し、理事会での投票の結果、トロント 20 票、サンチアゴ 4 票、棄権 3 票で、トロントに決まった。

会員サービス維持・向上の観点から、オンラインでの行事開催も検討していく必要がある。そこで、Virtual Technical Events の TF が設置され、宮田がリーダーを務めることとなった。

執行部体制に関する TF の設置も決まった。執行部（Officers）とは会長、副会長、前会長、会計担当理事（Treasure）、庶務担当理事（Secretary）の 5 名である。執行部に仕事が集中していることに加えて、会長は理事として 2 期、副会長・会長・前会長として各 1 期、合計 5 期 20 年の長きにわたって理事会に参画するパターンになっていることも、負担が大きく問題であるとの言及があった。歴代会長のご尽力に敬意を表します。

4 つの技術委員会のうち、補強技術委員会、水理技術委員会、バリア技術委員会で委員長の交代が承認された。これは、委員長の任期（4 年を基本）を決めたことに伴う交代で、既に 4 年を超えた 3 つの委員会の委員長交代は今年の理事会で予告されていた。いずれも各委員会から推薦された委員長候補を理事会が承認する形となった。

オンライン会議は効率的に物事を進めることができ、特に国際活動ではそれが顕著に感じられるが、はるばる旅して同じところに集まって雑談したり一緒に飲んだりして・・・という経験ができない。何か大きなものが欠けているような気がする。何より面白くない。以上です。